

第一部

古代島根に輝いた 荒神谷の銅剣



* 絵は伝島根県出土「邪視文銅鐸」と荒神谷遺跡出土銅矛

黄金の輝きを放つ金属・青銅器……。今から二二〇〇年前、海の彼方の大陸から倭人の島に渡ってきた。
銅鐸、それは青銅のベル。今までに見ることのない神秘的な輝き。そこから奏でられる神秘的な音色は、倭人たちの心に深く響いた。人びとはそれを豊穡を祈る祭りの主座に置き、銅鐸は神秘的な色をいっそう強めていった。
銅剣、銅矛。武器として伝わってきた青銅器も、やがて祭りや儀礼の道具となった。黄金に輝き、神秘的な音色を響かせる青銅器は、村人たちの共有の宝、神宝であった。しかし時代の流れはこれらを権力のシンボルへと変えていった。
「こ出雲びとたちの地も、青銅器の時代を迎えていた。」